

今までの人生を振り返ってみると、つくづく運がいいなあと思うことがある。私は、運とか運氣というものを信じているわけではないが、これらの言葉を使わないと説明がつかないことが多いのは事実である。皆さんは、「運氣」というものの存在を信じているだろうか。

この運氣というものは、いまだ、科学的にはその存在が証明されていない。現代の最先端科学によっても、それが存在するか否か。そして、存在するならば、なぜ、そうしたものが生まれてくるのか、いまだに解き明かされていない。

しかし、それにもかかわらず、人類数千年の長い歴史の中で、そして、この広い世界の中で、多くの人たちが、この運氣というものの存在を信じている。それが、運氣と呼ばれるものの不思議な一面であろう。

確かに、たとえ、口に出しては言わなくとも、心の奥深くで、その存在を信じているため、多くの人が、何か悪いことが続くと、「運氣が下がっている」と思い、何か良いことが続くと、「運氣が上がってきた」と考える。

また、「弱り目に祟り目」という言葉のように、心の状態が弱かったり、ネガティブになっていると、次々と不運と思えることが起こり、逆に、「断じて行えば、鬼神もこれを避く」という言葉のように、心の姿勢が強くなり、ポジティブになっていると、不運と見える出来事も幸運に転じていくということが起こる。

人類が始まって以来、洋の東西を問わず、無数の人々が、そうした体験的感覚を持っているがゆえに、あれこれの科学的証明を超え、多くの人が、この運氣の存在を確かに感じている。それゆえ、運氣に関しては、古今東西、無数の本が出版されており、そうした本には運氣を向上させたり、良い運氣を引き寄せるための様々な方法が述べられている。そこに書かれている方法を試された方もいるかもしれない。

しかし、残念ながら、古今東西、多くの人々がこうした本を読み、そこに書かれている様々な方法を試してきたが、それらの方法が、あまり有効ではないと感じている人も多い。それはなぜか。最近読んだ本に次のようなことが書かれてあった。

従来の方法は、いずれも、心の世界をポジティブな想念で満たせば、ポジティブなものを引き寄せ、良い運氣を引き寄せるということを述べてきた。その考えが間違っているわけではないが、ただ、心の世界をポジティブな想念で満たそうとしても、我々の心の奥深くには、すでに、ポジティブな想念を上回る多くのネガティブな想念が溢れている。そのため、そのネガティブな想念を消すことなく、ただ、ポジティブな想念を心の世界に持とうとしても、すでに心の中に存在するネガティブな想念の力が、ポジティブな想念の力を打ち消してしまうのだそうである。そして、さらに大きな問題は、我々が心の中をポジティブな想念で満たそうと思っても、心の不思議な性質がゆえに、むしろ逆に、心の奥深くにネガティブな想念が生まれてしまうのだという。

私は、この理論に合点がいった。振り返ってみると、運がいいと思うことはたくさんあったが、常に私の中には強大なネガティブな想念があったのである。このネガティブな想念との付き合い方が重要なのではなからうか。STAY HOMEの期間に、そんなことを考えた。時間があると、あれこれといろいろなことを考えてしまうものである。このこと自体が、すでにネガティブなことなのかもしれないが。

今は、日本中が、世界中が、ポジティブというよりはネガティブな空気に包まれている。しかし、運氣は下がるときがあれば、必ず上がるときがくる。人々は、そのことをわかっている。今を耐え忍べば、必ず明るい未来がやってくると信じている。そうでなければならない。